

# 枝幸町乙忠部でヨーロッパタイトゴメを撮影

芳賀 馨

〒 330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町 1-16-1-804

## 初めに

ヨーロッパタイトゴメ（オウシュウマンネングサ）*Sedum acre* Linnaeus は、ベンケイソウ科マンネングサ属に属する多年草で、ヨーロッパ、小アジア、北アフリカを原産地とする外来種である（大場 2003）。日本では 1999 年に梅沢俊氏によって釧路市で最初に採集された（大場 2003）。北海道ブルーリスト 2010 によれば、本種の日本への導入原因は園芸植物の逸出とされ、現在では北海道、本州、九州に帰化している（北海道環境生活部環境局自然保護課特定生物グループ 2010）。北海道内では各地に点在し、宗谷総合振興局管内では礼文島、稚内市、枝幸町から確認されている（北海道環境生活部環境局自然保護課特定生物グループ 2010）。枝幸町での確認位置は旧枝幸町域（歌登中心街より下流側）の北見幌別川下流部であるが、分布図上のメッシュ表示であ

り、詳細な地名や記録の出典は示されていない。

筆者は 2020 年 7 月に甲虫の調査のために枝幸町を訪れた際、乙忠部の海岸で本種を撮影した。オホーツクミュージアムえさしの立石淑恵氏に照会したところ、枝幸町内での本種は、町民の方が目視で確認した報告等はあるが、正式に論文等の文書では報告されていないとのことであった。上記の分布図を考慮すると、筆者が見落としている文献記録がある可能性が高いが、今後の本種のモニタリングに資するため、記録しておきたい。

## 撮影記録

1 個体以上（写真 1, 2）、乙忠部（ニウシナイボ川河口左岸。N44° 47' 16", E142° 42' 53", 標高 3m）、22.VII.2020、芳賀馨撮影

上記の個体は、国道 238 号線から海側へ分岐して乙忠部漁港に至る道路の北端付近で、アス



写真 1 枝幸町乙忠部に生育していたヨーロッパタイトゴメ（2020 年 7 月 22 日）



写真 2 写真 1 と同じ個体の接近撮影

ファルト舗装と海側の風衝草地（ササ類、イタドリ等）の境界に生育していた。この境界部の表土は建設残土のような砂と細礫で構成され、他の植物が後退して空間が開いた状態になっていた。舗装の縁には蘚苔類が生育し、蘚苔類の草地側に隣接する長さ（道路平行方向）約 1m・幅約 50cm の範囲に本種の葉と花が認められた。地表に葉と花が認められる部分は 3-4 個の塊に分れていたが、地下でつながった 1 個体であったかもしれない。中心にある大きい花の塊から 10cm 程度間隔を置いて小さい花の塊が生じており、周囲に広がろうとしているように見えた。なお筆者は、甲虫の調査のため 2018-2020 年の各 7 月に延べ 18 日にわたって枝幸町内各地を踏査したが、本種を観察したのはこのときだけであった。

### 謝辞

枝幸町におけるヨーロッパタイトゴメの記録の有無についてご教示くださり、発表を勧められた立石淑恵氏（オホーツクミュージアムえさし）に、心からお礼申しあげる。

### 参考文献

- 大場秀章, 2003, 「ベンケイソウ科 Crassulaceae」  
清水建美（編）『日本の帰化植物』: 98-99, 平凡社, 東京.
- 北海道環境生活部環境局自然保護課特定生物グループ, 2010, 「ヨーロッパタイトゴメ」『北海道ブルーリスト 2010』. <http://bluelist.pref.hokkaido.lg.jp/db/detail.php?k=08&cd=160>, 参照 2022 年 4 月 19 日.